



人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

NO.135

5
2015.May

Akitakata

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/

はじめまして！
私たちが地域おこし協力隊員です！



(今月の主な内容)

2~3

安芸高田を興す一地域おこし協力隊員一

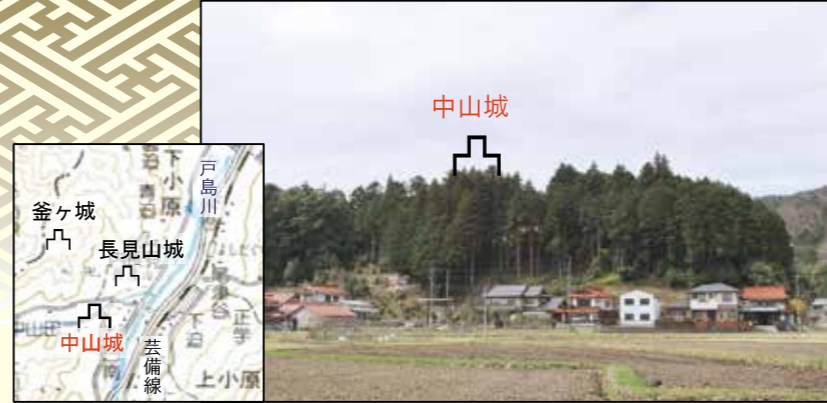
4~7

平成27年度予算・主要事業の概要

安芸高田歴史紀行

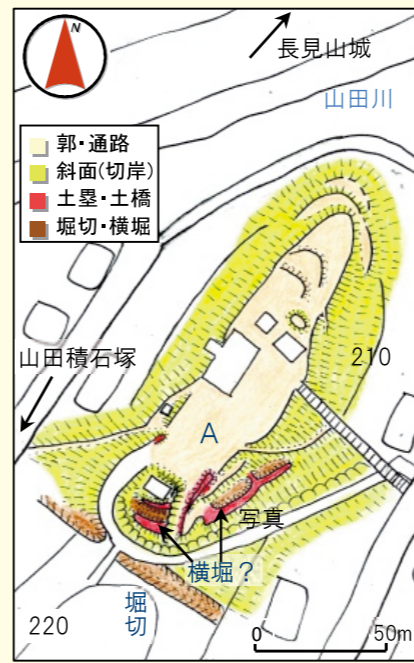
中山城 《中田町上小原》

【登城ガイド】
標高/220m、比高/20m
史跡指定/未指定
城主/不明
所要時間/東側の参道からすぐ



周辺位置図

中山城遠望(東側より撮影)



中山城略測図(作図 秋本哲治)



横堀らしき遺構(南西側より撮影)

立地：山田集落の入口にあたり、中山と呼ばれた細長い尾根の先端部にあります。南西山麓には、室町末期の山田積石塚という墳墓が発掘されています。なお、長見山城(第8回)で紹介した山田川を隔てて僅か150mの距離です。

城跡：神社境内の郭Aを中心に北を向いて数段の郭が連なります。背後には道で一部破壊された堀切が残り、南側と東側には珍しく横堀らしき遺構もあります。

歴史：天文9(1540)年、郡山合戦時に毛利援軍の陶軍が山田中山に着陣していましたがこの城との関係は不明です。神社としては大永2(1522)年毛利氏が鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮から勧請したと伝わりますが、『防長寺社証文』中の永正17(1520)年毛利元就書状に「中麻原八幡」とあります。この史料には他に「上麻原八幡宮」「麻原大宮」「大宮八幡宮」などの名称が出てきますが、これらが中山神社を指しているのかは不明です。また、この頃毛利氏の命によりこの地の神官を務めたのが波多野定盛と子の元重で、元重は字名から小南姓を名乗っています。元重は江戸時代に毛利氏とともに萩に移り、春日神社の宮司となります。なお、中山神社は江戸時代初頭に火災に遭い文書や宝物が消失しています。

考察：おそらく城という認識がなかったため、中山城の名は戦後まで現れません。小さな丘陵上という立地、神社境内でもよく残る遺構、そして史料上から見て、戦国時代末期にこの八幡宮の地に元重が住んだ館であったと考えられます。

シリーズ「お城拝見!」第五十八回

安芸高田市歴史民俗博物館 学芸員 秋本哲治

編集後記

みなさんは、新しい学校や職場に少しずつなれてきましたか? 自分もこの4月から新たな職場へと異動があり、この号から「広報あきたかた」に関わることになりました。未永くよろしくお願ひします。最近、新しく出会う人が増えてきますと、ひとりひとりの仕事に対するやり方や考え方の違いに気づきます。そんな時、前の仕事でもあった、互いの違いを認め合い、共に生きる大切さの事を思い出しました。一人と一人の力を併せて「2人以上」にするためには、この違いを認め合う雰囲気や関係が大事なかな? と思っています。そんな雰囲気でも広報も発行していきたいと思っております。よろしくお願ひします。(原田)

今月の表紙

桜の見頃を迎えた土師ダムに行くと、たくさんの方が家族や友人たちとお花見を楽しんでいました。桜を愛でる気持ちは老若男女同じなのだ、しみじみと感じました。(田村)

4月に安芸高田市にやってきた6名の地域おこし協力隊員。満開の桜の下、ガッツポーズをした姿から、今後の意気込みが伝わってきます。